



発行元・白鳥神社総代会



三番目の灯籠

白鳥神社境内で三番目に古い灯籠は拝殿の前、西側に立っている。一番目に古い灯籠と向かい合つていて、対をなしている。一番目が昭和三年、これについては宮の森前号に掲載した。今回は三番目についての概略を記します。灯籠に彫られている文字から、奉納者は“白鳥電氣株式会社・社長曾我祥一”
“昭和七年七月十九日” “石工正者光五郎” とある。

白鳥電氣株式会社の概略を記すと、大正元年に白鳥町内有志により創立され、大正三年に第一発電所が白鳥1030番地(白鳥一号組、旧戸川敬之助氏宅近辺)に完成し、営業を開始。発電力は十五kW、供給区域は上保村全部である。(上保村は旧白鳥町で白鳥、為真、越佐、大島、中津屋)したがつて白鳥に始めて電灯が灯つたのが大正三年である。その後、大正六年に第二発電所が白鳥字上山に完成。上山は白鳥と二日町の境で長良川の東側に、現在もその跡が残っている。さらに大正十五年に牛道村野添に第三発電所が完成している。

昨年、白鳥太神樂は525年の節目だった。その記念に、普通は一頭だが二頭の獅子が舞つた。今一つの記念事業に“御かみの儀”を挙行。御かみの儀とは幼子の頭を獅子が噛む儀式。神樂の獅子舞は邪氣払い、疫病退治の意味を持つ。日本人にとって獅子は、架空の聖獸。神の使いとも思われている。神樂の獅子舞は町内を悪魔払いしてゆく。そして行く先々の広場では留まつて舞う。見物衆には縁起の札が配られる。

御かみの儀は神社本殿の前で行った。頭を噛むと言うのは、邪氣を獅子が飲み込んでくれる。又、“噛みつく”と言つるのは“神が憑く”といわれ縁起がいい。子供が健やかに育てと願う親心か。今年は新聞にチラシを入れて、広く告知。その効果があつたのか62名のお子さんが御参拝。幼子は親御さんに抱かれて獅子の前に行くと大泣き! 親にしがみつき、顔を伏せてしまう子も。幼稚園児でも獅子が怖くて、近寄れない。今年お出で頂いた方は芳名録に記帳を頂いた。

第三発電所は昭和二十三年で操業廃止、会社はその後中部電力に吸収されている。曾我祥一氏は吸収後も中電に勤めておられた様である。当時の会社役員には高橋澄雄、蓑島省三、原韶、丹羽治助、脇本九十九、酒井栄助、森松一、市村岩松、高橋四朗、錚々たる名前が見える。灯籠に刻銘されている社長・曾我祥一氏は後年、白鳥三号組で衣料品店営んでみえたマルマタの人。石工・正者光五郎は現白鳥踊り保存会長である正者英雄氏の祖父。正者英吉と兄弟で、子供達は名古屋で石屋を営んでみえる。白鳥電氣株式会社は地元で発電所を作り、白鳥に最初の電気を灯した会社だと記憶されればと思います。そして、今、足立好教氏が工夫して、灯籠の電灯はミー太陽光で点灯しています。ご覗ください。

御囁みの儀



秋祭りの準備と変化

白鳥神社秋の例祭が終わった。時代の流れで毎年少しずつ變つてゆくものがある。大神樂役者衆の足元が変わった。今迄は藁草履と草鞋だった。ところが草履と草鞋が無くなつた。これ等は消耗品で毎年作っていた。編むのは氏子の長老の方。高齢により、製作が出来なくなつた。これ等は近くの市場にはない。

それに代わるものとして地下足袋を採用した。各地の祭りを見ても、地下足袋が多い。我が神社が最も遅くまで草履、草鞋であつたと思う。替えたもう一つの理由は草鞋が履けない。特に子供は皮膚が弱くて、藁が食い込んでくる。

草鞋は色紙や布で綺麗に飾り付ける。この作業は花切と言つて祭り前日に行つ。神社総代のO.Bの方々が伝統的にやつてきた。この花切は、神樂に使う道具、衣装等をも飾付ける。一朝一夕に出来るものではない。先輩方の作り方を見て覚えるのである。御歎だけでも



十組くらい作る。子役の花笠の花飾り。籠花に差し込む花は手造りでスキにくつ付ける。見物に来られた人に上げる縁起札もすべて手作り。多くの人の手が、これらに込められている。花切りをする人も高齢化で減少してきている。培つてきた伝統の技も順々に消えてゆく。他の地方では祭りそのものが消えたとも聞く。その内にロボットが祭りの主役の時代が来るやも? でも笛の音は変えたくない。

七五二参り

十一月三日、雨上がりの境内に「十一組の七五三」の皆さんが晴れ着に身を包み、親御さん達とお参りされました。遠く岐阜市、関市、八幡町、大和町からもご参拝され、晴れがましい未来からのお客さんの健やかなご健勝を御祈念いたしました。

参拝の皆様をご紹介します
(敬称略)。



みんなの俳句・投稿・その参

「句箱あり 楽しみありて 宮参り」・・・ 田中ヒサ子
「梅雨明けて 神社広場の 草をぬぐ」・・・ 田中ヒサ子
「御宮様 銀杏の実が 楽しいな」・・・ 田中幸子
「コオロギと 二人連れして 宮の坂」・日溜り玉打坊
「すやすやと 眠れる位 宮の森」・・・ 珍法将軍
「盆踊り 踊りつくすに 夏の夜」・・・ 古賀未和子
「秋彼岸 話し乍ら 宮参道」・・・ 虎ジージ
「残暑尚 厳しい年も 池涼し」・・・ 虎ジージ
「鯉のみち 右に左に ゆらゆらと」・・・ 詠み人知らず
「早涼に訪れだし いつか踊つてみたい 郡上踊り」・・・ 詠み人知らず
「青空と 日々の幸せ 永遠に」・・・ 詠み人知らず
「秋祭り 獅子に噛まれて 泣く子かな」・・・ 寅次郎

令和七年十一月からの行事予

12 12 12 12
/ / / /
31 28 21 1
・・・・
・・・・ 縁起物受け入れ。
・・・・ 新年初詣の準備、最終準備。
午後十時より徹夜初詣接待態勢に入る。



御寄進・ご奉仕

御寄進・ご奉仕

1／11・・・・・門松撤去。

3／8・・・・・祈年祭・稻荷神社初午祭。年度末総会。

3／26・・・・・会計監査。

冬季間 積雪状況により 屋根雪下ろし 除雪作業。

一、百日紅桶ミユコンボ提供・・・・・西村石材店 様

一、百日紅桶設置・・・・・足立好教・川崎弘 様

一、本殿飾り幕一式・令和六年度白鳥自治会一同 様

一、白米30kg・・・・・・曾我幸男 様

旧い幕は昭和五十一年に奉納されたもので四十九年 が過ぎております。お名前を拝見すると懐かしい方々 で総て鬼籍に入つておられます。新しい幕のお名前を 見ますと親子二代に渡つておられる方々も窺えます。 心温かいご寄進・ご奉仕、誠に有難うござります。

御朱印受付



ご希望の方は0575(

（文責・瀬木）